



鶏 けいめい 鳴

2007年9月9日(第5号)

イエスの言葉

『平和を実現する人々は幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる』
聖書(マタイ福音書5章9節)

牧師 河合裕志

人類は今日に至るまでどの位、戦争をして来たことか。その数は数え難い。私達の国について見ても多くの戦争を経験して来たがその最たるものは62年前に終わった太平洋戦争であろう。この戦争で310万人もの人々が死んだと言う。兵士として戦死した者と原爆や空襲で亡くなった非戦闘員の総数である。日本が外国に攻め上りそのために被害された人々の数も大変なものであろう。

現在はどうか。わが国は戦争状態にはない。誠に感謝なこと。一方イラク方面においては「テロとの戦い」が連日繰り広げられ多くの人々が爆撃や自爆テロによって命を落としている。イエスを生んだイスラエル方面もいつまでたっても火種が絶えない。すぐ近くの北朝鮮は核実験をなし核保有国となったと言う。いつ日本に向けて核弾頭が飛んで来るかわかったものではなく、これに対する防備を急げといった声も聞かれる。

2千年前、イエスは「平和を実現する人々は幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」と言ったがこの言葉に人類は逆行しつつ今日に至っている。2千年の間、イエスの心は踏みにじられたままである。

イエスの思いは人の命を大切にすること。神の尊い作品である人間を戦争によって失ってはならない。イエスの心は平和にある。

国と国との間に平和を実現すること。イエスの心の内に次の預言者イザヤの言葉が通っていたことだろう。「彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない」。

イエスの育った国イスラエルは小さな国として2千年前ローマ帝国の支配下にあった。その前にはバビロニア帝国により、その前にはアッシリア帝国により蹂躪されて来た。帝国の横暴さを知るイエスはしかしこれを武力をもって打ち倒す道をとらなかった。それは暴力の連鎖を生むだけ。イエスのとった道は非暴力の道であり、隣人を自分のように愛する道であった。イエスの思いを知って隣人愛が人の心に優位を占める時、人類は平和に近づく。

そのようなイエスの心を持った人間がこれまでなかった訳ではない。「平和のうつつとならせて下さい」と祈ったフランチェスコはその一人。これからも神の子と呼ばれる者達の出て来ることをイエスは願っている。あなたがその一人となり平和実現のために祈り努める者となることをイエスは欲している。

集会案内

主日礼拝：毎日曜日	午前10時15分
こどもの教会：毎日曜日	午前9時
祈祷会：第4日曜日	礼拝後
婦人会・壮年会：第2日曜日	礼拝後
聖書を学ぶ集い：第4水曜日	午前10時
オリーブの会：第3月曜日	午前10時

(読書会を中心に身近な問題を話し合っています。)